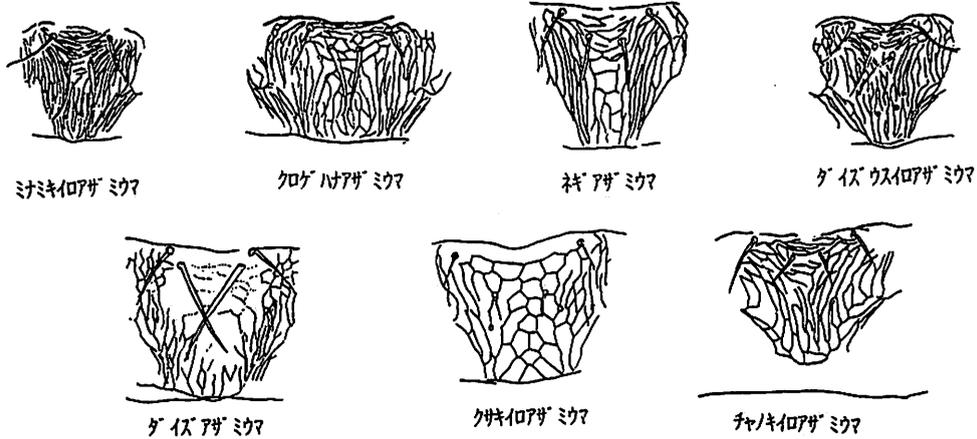


課題名	54 露地栽培ナスのミナミキイロアザミウマ総合制御技術調査解析					分類	①																																
	露地栽培ナスに発生するアザミウマ類とミナミキイロアザミウマとの簡便な識別法																																						
試験研究年次	62～1年(完了)																																						
<p>I 目的 露地栽培ナスには定植後約2ヵ月間は数種のアザミウマ類が発生するが、これらはミナミキイロアザミウマに良く似ており肉眼では識別が困難である。また、ミナミキイロアザミウマ以外の種はナス果実を加害することはない。本種の発生時期と防除時期を把握し、防除適期を明らかにするためには、本種と他種との識別が重要となる。アザミウマの種の正確な同定のためには6～7ヵ所の形態を顕微鏡で観察する必要があるが、時間がかかるので省力的な見分け方を明らかにし、迅速に防除時期を把握する方法を確立する。</p>																																							
<p>II 試験方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 調査場所：筑紫野市農総試験場内及び甘木市 2 ナスの品種：新長崎長(場内)及び大成早生長(甘木市) 3 調査葉数：場内では10株×2葉、甘木市では6ほ場×25株×2葉、ただし甘木市ではミナミキイロアザミウマが多発生した7月下旬頃からは一部の株からアザミウマを採集した。 4 アザミウマの採集方法：使い捨てのピペットチップを取り付けた吸虫管で、体色が淡褐色ないし黄色で、ミナミキイロアザミウマによく似た種のみを採集した。 5 アザミウマの殺虫保存液：AGA液(蒸留水5、95%エタノール8、グリセリン1、氷酢酸1の割合の液) 6 アザミウマの封入液：ガムクロラル液(蒸留水25ml、グリセリン10ml、アラビノース15g、抱水クラール#25g) 																																							
<p>III 主要成果の概要</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ミナミキイロアザミウマの後胸背楯板の刻紋が縦じまであることと、鐘状感覚器があることを観察することによって他種と識別できる。この方法では、従来行っていた触角の節数、単眼間刺毛の位置、腹部第2背板側縁の刺毛数、腹部第8背板の櫛歯状突起などの観察を省略できるので、種の識別に要する時間が大幅に短縮できる。 2 ミナミキイロアザミウマか否かの判定に要する時間が節減できるので、迅速に初発生時期を把握でき、効率的防除が可能となる。 																																							
<p>IV 主要成果の具体的データ</p> <p>第1表 ミナミキイロアザミウマと他種との識別部位</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>比較する形態</th> <th>ミナミキイロアザミウマ</th> <th>クサキイロアザミウマ</th> <th>クサキイロアザミウマ</th> <th>クサキイロアザミウマ</th> <th>クサキイロアザミウマ</th> <th>クサキイロアザミウマ</th> <th>クサキイロアザミウマ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>① 後胸背楯板の刻紋</td> <td>縦じま</td> <td>網目</td> <td>網目</td> <td>縦じま～やや網目</td> <td>網目</td> <td>網目</td> <td>縦じま</td> </tr> <tr> <td></td> <td>後縁でわずかに内側に曲がる。</td> <td></td> <td></td> <td>後縁で内側に曲がらない。</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>② 後胸背楯板の鐘状感覚器</td> <td>有</td> <td>無</td> <td>無</td> <td>有</td> <td>無</td> <td>有</td> <td>無</td> </tr> </tbody> </table>								比較する形態	ミナミキイロアザミウマ	クサキイロアザミウマ	クサキイロアザミウマ	クサキイロアザミウマ	クサキイロアザミウマ	クサキイロアザミウマ	クサキイロアザミウマ	① 後胸背楯板の刻紋	縦じま	網目	網目	縦じま～やや網目	網目	網目	縦じま		後縁でわずかに内側に曲がる。			後縁で内側に曲がらない。				② 後胸背楯板の鐘状感覚器	有	無	無	有	無	有	無
比較する形態	ミナミキイロアザミウマ	クサキイロアザミウマ	クサキイロアザミウマ	クサキイロアザミウマ	クサキイロアザミウマ	クサキイロアザミウマ	クサキイロアザミウマ																																
① 後胸背楯板の刻紋	縦じま	網目	網目	縦じま～やや網目	網目	網目	縦じま																																
	後縁でわずかに内側に曲がる。			後縁で内側に曲がらない。																																			
② 後胸背楯板の鐘状感覚器	有	無	無	有	無	有	無																																



第1図 露地栽培ナスで採集されたアザミウマの後胸背楯板刻紋及び鐘状感覚器

第2表 筑紫野市の露地栽培ナスにおけるアザミウマの種類構成 (1年)

アザミウマ の 種 類	調査時期別個体数 (頭)												
	5/24	6/1	6/9	6/14	6/27	7/4	7/11	7/18	7/24	8/1	8/8	8/14	8/21
ミナミキイロアザミウマ	1	0	1	2	0	3	0	5	2	0	2	15	17
クロゲハアザミウマ	3	3	1	4	2	1	0	0	1	0	0	0	1
袷アザミウマ	0	1	11	16	2	2	3	7	3	1	1	0	0
ダイズウスイロアザミウマ	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0
ダイズアザミウマ	0	0	0	1	1	1	6	5	16	4	2	0	0
クキイロアザミウマ	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
チャキイロアザミウマ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2

注) ダイズウスイロアザミウマは雄のみ。本種の雌は体色が褐色で、ミナミキイロアザミウマ以外の種であることが容易に識別できる。

V 成果の評価と取扱上の留意点

- 1 野菜病害虫防除基準に掲載し、各地域におけるミナミキイロアザミウマの防除適期の把握のための参考資料とする。
- 2 九州農業研究成果情報第5巻に②技術指導に参考となる成果として登載の予定である。
- 3 ダイズウスイロアザミウマ雄は、ミナミキイロアザミウマ雄に良く似ているので、他の形態もあわせて観察することが望ましい。

VI 今後の研究上の問題点

さらに簡便な識別法を開発する。

VII 資料名

- 1 九州病害虫研究会報第34巻(1988)
- 2 九州農業研究成果情報第5巻(1990)